

1 日 時 令和3年8月3日（火） 13時00分から14時30分

2 場 所 千里山コミュニティセンター 多目的ホール

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ウェブでの会議も併用

1. 開会

○事務局

第6回吹田市地域公共交通会議開会のあいさつ。

2. 議事

○事務局

《資料2を説明》

○委員

運行事業者に選定いただき、ありがとうございました。

千里丘地区のコミュニティバスを10年以上運行しており、そのノウハウを活かし千里山地区の輸送を行っていききたい。地域の期待に応えられるよう、安全を第一に、そして安心して乗車できるよう確実な運行に努めたい。

○委員

阪急バスが最優秀事業者であることは全然問題ないが、一社の応募で最優秀という形容詞はどうか。

○事務局

吹田市のプロポーザルでは一社の場合も最優秀提案事業者となる。その言葉の表現等は、意見があったことを、契約部署、担当等に情報連携し、どういう表現がいいのかは協議をしていきたいと思う。

○会長

意見があったことをあげさせていただき、選定委員会が今後開かれる際にお考えいただきたい。

○事務局

《資料2、資料3を説明》

○委員

資料3のp36の公共交通空白地の解消率について、もう一度説明してもらえないか。

○事務局

公共交通空白地の解消となる区域は、試験運転でバスが通るところが対象。公共交通空白地の解消率は、今回の試行運転により、公共交通空白地AとBで解消される人口の割合を面積から算出したもので、表右端下の75%は試験運転でバスが通ることによって公共交通空白地（AとB）の人口の75%が解消され、近くに公共交通が通ったということをさします。

○委員

資料3のp34の試験運行の利用状況調査について、結果は今後の問題点を含んでいる。状況次第では改善検討も有りうるかと解釈できるので、綿密に詳しいデータを求めたいし、それを踏まえて最終決定をしたいので、調査は詳しくお願いしたい。

○委員

このバスは交通空白地の解消と、病院などの色んな施設を通ることが重要な点である。一方で店舗や重要施設が移転や閉店、若しくは開店等、施設配置がここ数年で特に変わると予想される。そこも含めてデータを取ることは大事で、改善案には利用者の下車した場所やその後の利用施設等も押さえたうえ

で検討し組み込んでほしい。

○会長

資料 3 の p 35 の運行継続の基準を住民の方に承知してもらうことは重要である。乗らないと運行が厳しいということをうまくかみ砕いて、「収支率 30%」といっても収支率を説明しないとわかりづらいし、乗車率も説明しないとわからないと思う。後から「これを適用します」と言われても困るのできちんと伝えていただきたい。

広報について、箕面市は周辺の店舗と協力して、例えば、バスでお店に行くのと帰りのバスの券をもらえるなど、様々な取組みをしている。市や阪急バス、住民だけの取組みではなく、地域には事業者がいるので、事業者とも協力して取り組んでほしい。市や自治会だけに終わるのではなく、店舗等も含めて広報してほしい。

○事務局

《資料 5 を説明》

○委員

パブリックコメントで、この計画に対してコメントをもらっても、それを新しく取り入れることは不可能だと思う。意見を出したら採用されるという誤解を生んだらいけない。パブリックコメントの趣旨をあらかじめ理解しやすいようにしておくと思意見をもらいやすいのではないかな。

○副会長

パブリックコメントは、基本的な市の計画に対して自由にご意見をいただき、それに市の方から回答を出すという進め方で、意見をいただいたことで計画を変えるというスタンスではない。ただし、色々な意見をいただくことで市の方も気づきが生まれる。改善の際は当然参考にして、意見を取り入れながらいいものにしていきたいと思っている。

○会長

パブリックコメントは名前を書いていただいて、かつ意見をされた方の地域は特定できるのか。

○事務局

パブリックコメントは、名前、住所等の記載の必要はないため、地域の特定はできない。

○会長

そこは地域の特定ができる方がいいような気がする。

令和 2 年に住民説明会をしているが、パブリックコメントだけでなく、自治会と協力されて、地元に入って「こういうバスを走らせますので使ってください」という説明会をした方がいいと思う。「200 円高い」と言われるかもしれないが、「12 枚つづりの回数券を使ってください」とか、「乗り継ぎ割引券もあります」とか、ある意味、販売促進にもなると思う。御議論いただければと思う。

これは地元の連合自治会へお願いしなければならないところがあるのですが、説明会がなくてもこのコロナ渦で対面は憚れるかもしれないが、できる限り対面で解きほぐして「使ってください」と説明をお願いしたいと思う。

○委員

スケジュールについて、試験運行は、令和 4 年 2 月から令和 6 年 2 月（令和 5 年度 2 月）まで行い、その間に事業判断をして、令和 6 年の 2 月から本格運行ということによいか。

○事務局

試験運行は令和 4 年 2 月から令和 6 年 2 月までの 2 か年で予定。事業判断で良しとなれば、令和 6 年 2 月から本格運行と考えている。

○委員

達成目標に関わる部分は、年度毎に数値が出てくるイメージでいいのか。

○会長

達成目標については、千里山地区としてどうするのか。試験運行時に適応するのか、2年連続と考えるのか。まだもう少し考えるのか。

○事務局

基準はまだ持っていないが、試験運行するうえで、30%、60%を目安に、達すればある程度順調と、至らなければ改善の必要性があるという判断になる。今はその目安でしかないと思っている。

○会長

利用者が徐々に増えてくることもある。試験運行期間2か年で全部平均にするのか、最後の年次あるいは最後の1か月だけかで状況が違ふ。そこは適宜判断か、決めておくのかという指摘と思うがどうか。

○副会長

基本的に需要が増えていくと読んでいる。本格運行の移行判断は、本格運行に入ってももつという判断ができるかどうか。試験運行中を平均する考え方はあまりない。予想以上に平均しても超えるなら問題はないが、最後の数か月間で伸びがある、みられる、新しい施設ができ改善計画をして効果が表れるなど様々な要因があると思うので、適宜判断がいいと思っている。

3. 閉会

○事務局

第6回吹田市地域公共交通会議閉会のあいさつ。